

# 令和4年度 多文化 Opinion Exchange 実施報告

## 1 日 時

令和5年1月10日（火）14時30分～17時00分

## 2 場 所

オンライン（Zoom Webinar）

## 3 テーマ

災害時の外国人支援 ～共助の担い手としての外国人住民～

## 4 ファシリテーター

明治学院大学 教養教育センター 准教授 長谷部 美佳 氏

## 5 発表者・パネリスト

総社市 人権まちづくり課 国際交流推進係 譚 俊偉 氏

東北大学 災害科学国際研究所 助教 ゲルスタ ユリア 氏

株式会社朝日工業 代表取締役 田箕 真司 氏 ハー タン チュック 氏

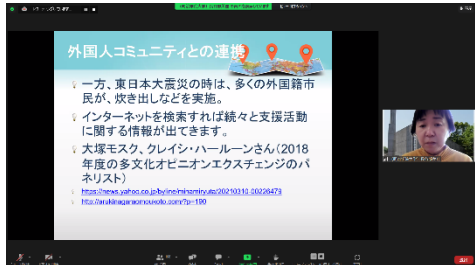
※株式会社朝日工業の2名は都合により急遽ご登壇が叶わなくなりました。

## 6 参加者

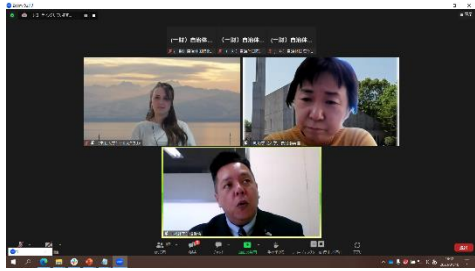
自治体・国際交流協会の職員等 168名

※出席を確認したアカウントの数のため、同一アカウントで複数名が視聴した場合など、実際の参加者数と異なる可能性があります。

## 7 実施内容の詳細

時 間	内 容
14:30-14:35	開会・挨拶
14:35-14:55	基調講演（長谷部 美佳 氏）  長谷部先生から、ウェビナーのテーマ「災害時の外国人支援～共助の担

	<p>い手としての外国人住民～」についてご講演いただきました。「行政は防災に力を入れているが、行政の力だけでは限界があるため、外国人コミュニティとの連携が重要。外国の方は母国語で情報発信できるというメリットを生かし、外国人コミュニティとの連携を強めれば外国人被災者数が減るのではないか」といったご意見をいただきました。</p>
<p>14:55-15:20</p>	<p>活動紹介（譚 俊偉 氏）</p> <p>総社市の取り組みについてご紹介いただきました。外国人集住都市 29 都市調査において、83.1%の外国人住民が「今後、大きな災害があったらボランティアをしたい」と答えたという結果をふまえ、「日本人だけではなく外国人にも防災に関わってもらった方が良い」とご提言下さいました。外国人防災リーダーを育む必要性や、その養成方法についてもご紹介いただきました。外国人住民が支援される側ではなく支援する側になる地域社会について前向きなご発言をいただきました。</p>
<p>15:20-15:35</p>	<p>活動紹介（ゲルスタ ユリア 氏）</p> <p>プロジェクト「東北からの声」での取組や、東北大学災害科学国際研究所での仕事についてご紹介いただきました。「東北からの声」は、東日本大震災の被災者をインタビューして回り、生の声をより多くの人へ届けることで、防災の重要性を発信するプロジェクトでした。また、東北大学における仕事では災害が多い国の方々と連携するため、イベントや意見交換、学生向けの防災ワークショップ、伝承館の見学ツアー等を行った経験をお話しく下さいました。</p>
<p>15:35-15:45</p>	<p>活動紹介（株式会社朝日工業）</p> <p>尼崎市消防団での取り組みについてご紹介いただきました。 急遽ご登壇が叶わなくなったため、あらかじめご準備いただいていた資</p>

	<p>料を事務局が代読しました。</p> <p>ベトナム出身の技能実習生チュック氏が尼崎市消防団唯一の外国人団員として、消防団の講習会などで、日本人住民にも他の技能実習生にも、AED の使用方法などを教える様子について、写真なども交えご紹介くださいました。</p>
15:45-15:55	休憩
15:55-17:00	<p>パネルディスカッション</p>  <p>長谷部氏のファシリテーションのもと、参加者からいただいた質問に回答しながらパネルディスカッションを行いました。パネリストのお2人には、それぞれの職場やコミュニティで活動されてきた災害時・防災における「担い手」としての外国人の観点から、様々なご意見をいただきました。譚氏から鋭いご意見をいただき、参加者からの「技能実習生は3年しか日本にいないので、役に立つ防災知識を得ることが難しい」といった質問に対しては、「『3年しか』ではなく『3年もある』と考えてみてはどうですか」と明快に回答されました。</p>
17:00	事務連絡・閉会